

第3回北広島市商工業振興審議会 議事要録

1 日時 平成28年3月23日(水) 18時30分から20時15分

2 場所 北広島市役所第3庁舎3階会議室

3 出席状況

No.	氏名	職業等	出欠
1	(副会長) 藤山 康雄	北広島商工会会長	出
2	山田 久俊	北広島商工会副会長	出
3	丹野 司	北広島市工業振興会会長	欠
4	(会長) 河西 邦人	札幌学院大学経営学部教授	出
5	長島 博子	北広島消費者協会会長	出
6	千葉 裕美	市民(主婦)	出

北広島市商工業振興審議会事務局

所属	役職	氏名
経済部	部長	藤木 幹久
経済部	次長	斎藤 秀樹
経済部工業振興課	課長	佐々木 伸
経済部商業労働課	課長	吉田 智樹
経済部工業振興課	主査	笹原 拓己
経済部商業労働課	主査	宮本 大介
経済部商業労働課	主査	山田 基

傍聴者

人数
0人

4 議事録

1. 開会

・事務局

6名の委員の内5名が出席。委員の過半数を超えており審議会成立を報告。

2. 議事録署名委員選出

会長により千葉委員を指名。

3. 議事

以降は会長による議事進行となる。

(1) 議案 1 商工業振興基本計画の検証について

- ・事務局

資料に基づき事務局から説明。

- ・委員からの意見、質疑 ※委員からの意見質疑⇒○ 事務局回答●

基本目標 1 「活気ある商工業の展開」

基本施策 3 「創造的な事業活動の支援」

○コミュニティビジネスとはどのようなものか。単純に自分で食堂を始めたいとか、そういうのではなく社会のために役立つ何かということなのか。

●コミュニティビジネスというのは、地域社会の課題をビジネスの手法により解決するというものです。例えば、障がい者の方々が働く場所がない、そういう場所を作ってビジネスを行う、そういうものをコミュニティビジネスといいます。例えば食堂を作って、そこで働くのが70代、80代の高齢者ばかりの食堂、高齢者の就業の場を確保する、またはその方々が元気に働いていただいて商店街を活性化させるというような目的が必要です。

○新産業の創出ということで3項目の内「商品開発、販路開拓のための異業種交流や情報提供」というのがあるが、あまり積極的に事業として行われてない、これを残していくかどうか、議論をしなければならない。産業の創出ということでこの項目を挙げて、当初はどのようなことを想定してこの項目を入れたのか。具体的なアクションとして商業労働課として何かをやろうとしていたのか。あくまで民間レベルでこういうことやろうと言う集まりを期待していたのか。

●異業種の交流だけを限定するとなかなか難しいかもしれません。イメージされているのは農業、商業、工業と連携した6次産業化の部分です。そういった部分も市の総

合計画に入っていますので、仕掛けづくりの可能性はあると思います。

○産学官と連携した地産地消やブランドづくりは、クラスター以外では色々行われているかもしれない、そういうニーズもあるかもしれないということで、事業としてのクラスター事業は中止だけれど、地域の企業の皆様と大学、大学生、それから市民の皆さんが何かの形で協力する、異業種交流をして何かを作り上げていくような仕組みを残した方がいい。

○民間なら民間でやってその中で困ったことがあれば、逆に「学」の方からアドバイスをいただくと言うような形が良いと思う。初めから組織や制度をつくるのではなく、何か起こったとき、色々なニーズがあったときに市がうまくマッチングさせて行くという仕組みの方がいいと思う。「商品開発、販路開拓のための異業種交流や情報提供」「産学官と連携した地産地消や地域ブランドづくり」に関してはこういった文章は残しつつも、中身を変えていくという事が必要ではないかと思う。

○オリジナルブランドづくり事業はどのように展開しているのか。

●きたひろ農学校シリーズと言うことで、「コロッケ」「春巻」「カレー」「グラタン」「プディング」を製作、販売し、PRとしてイベントでの販売、景品としての活用と色々なところでさせていただいています。そういう意味での販路拡大ということで、今回予算確保しまして、札幌大通公園で行うオータムフェスト、北広島ふるさと祭り等色々なところでPRさせていただく予定です。爆発的に売れているということではありませんが、販売拡大につきましては、現在も継続して取り組んでいるところです。新産業の創出の部分で考えると、オリジナルブランドづくり事業の部分というのは、どちらかというと食の部分を通じて北広島をPRするというシティーセールス的要素が多いと思います。

○オリジナルブランドづくり事業は、PRの仕方という、対外的に北広島市の名前を売ると言う事ではなく、市民に周知していく意味合いも必要ではないか。もっと身近で買えるような販売の経路も含めて一回、市が呼びかけて飲食店や小売店に集まっていたら、そういうことも協議してはどうか。初めからダメだといったらそれ以上物事が進まないの。味はいいと思う。

○広報で地元の高校生がきたひろ農学校シリーズの「春巻き」のレシピを作ったと宣伝していただいたことがある。今の家庭科の先生が熱心で、高校生をどんどん使ってくださいと言っている。高校生が考えたレシピを多数持っている。市に出した方がいいのではないかと思う。消費者協会で「地産地消コンテスト」と言って地元の農産物を材料にしたレシピを募集してコンテストをやっている。例えばどこかの事業者でそのレシピをもとに、コンテストで高校生が発案した北広島の食材を使った食品という形で展開できれば一番ベストではないか。

○オリジナルブランドづくり事業ということで、5品目あるが、2品目ぐらいでよかったのではないか。他に赤毛米の米粉のケーキを市内のお菓子店を出しているが、中

山久蔵翁の赤毛米なのだから、そういう切り口でもっと宣伝したらいいと思う、市町村で名物があるように、北広島に行ったら、「北広コロケ」「北広春巻き」があると言うように、ブランドが市を代表するような決定的な物が欲しいと思う。大手菓子製造業者が進出すると聞いているので、依頼して北広島のオリジナル菓子を作製してもらおうと言うような事ができればいいと思う。JR 北広島駅のキヨスクにあるのは北海道の土産物しかない。北広島の菓子等駅に土産物として出るようなものができればいいと思う。

○「商品開発、販路開拓のための異業種交流や情報提供」に関しては、例示されている「各種講習会、後援会、異業種交流会などの情報提供を図る」については事業として十分行われていないが、新たな商品開発とか販路拡大については実施されているので、題目として残すことは差し支えないのではないかと。ただ事業の中身を現状に合わせて変化させて支援する形があるのではないかと。「産学官と連携した地産地消や地域ブランドづくり」に関しても、クラスターという大掛かりな枠組みは動いていないが、例えば企業が大学生のデザイン力を活かして何かを実施する時に、市が大学さんとの間に入ってマッチングする。またここで想定されている産学官のクラスターは農業製品を作る手法をイメージしているが、例えば、市内の大学には福祉系の学部があるので、健康体操を考案してプログラム化、地域の介護事業所に提供するようなこともクラスターと捉えられるのではないかと。

○色々な形があるからこそ、必ずしもクラスターみたいな大掛かりなものに限らず、地元の企業が、色々アイデア欲しいといったものを、知恵を持っている大学とかそういったところと繋ぐ役割を市が担うべき。新産業の創出の項目は残し中身を変える。

○買い物対策について、現状は買い物の環境がとりあえずはある。ただ問題は「足」、で少し遠くに買い物に行くときに公共交通機関というのが不十分というのが課題かもしれない。公共交通機関に関しては、商工業の振興の面だけでできる話ではない。もっと全体の総合計画の中で横断的な課題として、取り上げて検討すべき。

○コミュニティビジネス創業支援について、今まで8件が創業し、2件が市外移転、1件が事業縮小、どの程度支援してこういう結果になったのか。逆に地元に対して、どの程度の貢献度があるのか。商業振興と言うより地域問題解決的な要素が殆どなのか。

●貢献度で言うとコミュニティビジネス自体が、ビジネス手法による地域課題の解決という形になりますので大きいエリアでの解決というよりもその地域での特性に合った形になりますので、見えにくいと思います。例で言えば、ブックカフェがありますが、地域のコミュニティという事では、大きな役割を担っているような状況です独自の文学賞を始めたりと地域の皆さんの注目を集めています。コミュニティおにぎりカフェもお母さん方でも時間を決めて働ける、女性の就業という部分で活用されている部分があります。また、子育て支援ワーカーでのお母さん同士のコミュニティ。個人

的には集まりにくいが場を活用して、集まればお話ができるという地域的な課題の解決というのは繋がってます。雇用の拡大という部分では期待しているところもありますが、小さい事業所が多いので、雇用が大幅に拡大するという効果は現状ではありません。

○総合戦略シンポジウムに出席したが、整合性はあるのか。類似したことが書かれていたり、今回の資料にも「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実施が記載されている。この会議と総合戦略の会議と同じようなことを言っているだけではないのか。

●総合戦略は大まかな概略で、商工業の部分をこの審議会で審議しています。今、総合戦略の中で起業支援を28年度から実施することになりました。今後成果をローリングしていきますので、今後工夫、見直しをしながら実施していく事になります。

○総合戦略シンポジウムの中であまりに総合支援、総合支援というので、新規創業だけではなく既存企業の支援をもう少し具体的に、今以上にやっていただければ、新規創業者が雇用するにしても一人若しくは二人位なのでは。既存の企業をもっともっと大きくすることで雇用の拡大や税収面でプラスになるのではないかと会議では発言させてもらった。

○創業支援を受けたい人をどのように募集しているのか。

●市の周知方法としては、広報、HP、チラシの作成、新聞掲載等の手段となります。または商工会、金融機関等からの情報発信そういった形になります。創業支援に関しては、空き店舗利用促進事業の補助も併用できます。定住促進、賑わいを作ってもらおう。空き店舗の解消、様々な問題を解消する策として周知していこうと思っております。

○産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画というのを札幌市が実施していて講座をやっている。制度を作って情報発信してそれに敏感に反応した人が訪ねてきて、色々創業支援の制度を聞いて使えるものを使っていくというやり方と創業とかしてみたいのだけどどうしたらいいかわからない人に対して創業塾等を開催するやり方。創業塾等を商工会が開催して、市が支援をして行く。関心のある人が集まってきて色々考えていく中で、実際に起業しようという人がでてくるかもしれないので、起業講座のようなものを設けておくのもいいのではないか。

○創業塾を商工会が主催することで何かあったときに、商工会に相談し易いという事になれば商工会の加入促進という部分でもメリットがある。

基本目標2「商工業活動を支える基盤の充実」

基本施策4「商工会・商店街振興会・工業振興会の支援」

○「商工業者の資質の向上に向けた各種事業の実施」について具体的にどんな事業をこれまでやってきたのか。

●実質上取り組めていない状況です。それで課題の一つとしてあげさせていただいて
います。

○まとめて、一堂に会してやると言うのはなかなか難しい。例えば商店なら商店、工
業系なら工業系と言ったジャンルで分けるのであれば具体的な提案も出来る。商工会
と意見交換をしてどんなニーズを地元の企業が持っているかそれを踏まえた上でこの
中身を決定して行くのがいいのでは。

○個別的な課題を抱えた同じような業界の関係の皆さんが集まってこういうセミナー
がやりたい、そう言う任意のグループでも補助とかの支援は出来るのか。

●工業振興会が実施する能力開発セミナーにも支援しています。こちらは3回開催し
て延べ106名が集まっています。他の任意の団体でも予算の範囲内であれば可能で
す。

○消費者自体が商工会に対して理解が足りないのではないかと思う。以前の交流を再
開して、協会なり消費者の皆さんにある程度商工会がこう言う事業をやっているのだ
よ、だとかこう言う方たちがいるんだよとかそういう理解を求める交流の場を設けた
方が良いのではないか。親睦意味合いが強いが、消費者のニーズを伝える具体的な部
分も含めながら毎年何回か交流していったほうが良いのではないかと思う。色々な面
で助け合う必要がある。

○消費者の声を聞く事はそれなりに企業にプラスになる事は間違いない。どんどんや
って行くべきだろうと。特に商業部会はやはり常に市民と密接に関係があるわけなの
で、ぜひ商業部会を主体としてやっていくべきと思う

○消費者の方と商工業者の方が組む事によって地域社会をもっと良くして行くような
仕組みを一緒になって考えて実行して欲しい。例えばエコバッグの取り組み。消費者
にとっても商業者にとってもメリットのあるようなやり方でやればもっと普及できる
かもしれない。今、エコロジーと言うことでゴミの減量とか進めているが、これも消
費者が単独でやるのではなくて、商業者の方と組む事によって効果的に出来るかもし
れない。そう言うような意見交換を出来る場がいまのところあまり十分ではないと言
う事なので、是非ともそう言うものを、消費者協会さんが主導なのか、それとも商工
会さんが主導されるのがいいのか、もっとニュートラルな行政機関が場を作るのがい
いのかは分からないが検討していただきたい。

○シルバー人材センターの事業に関しては現在、基本施策4の「地域商業や工業振興
と商業及び工業団体の育成」に対する既存事業として記載されているが、一方で基本
施策5の就業機会の拡大と安定化には項目としてシルバー人材センターとの連携強化
が記載されている。市はシルバー人材センターと言う事業者を育成して行くのか、そ
れともそこで働く人達を支援して行くのか、そのスタンスをどうして行くのかを聞き
たい。

●高齢者の就業機会の拡大を図ると言う事を目標にシルバー人材センターがあります

ので、その目的に対し市はシルバー人材センターの運営を支援して行くと言うスタンスです。それで行きますとやはり基本施策5の方にそれがもう明記されているので、逆にそちらの既存事業としての記載で良いのかなという気はしております。

「基本施策5 勤労者の福利厚生推進」

○ジョブガイドに相談員としているのはハローワークの職員か？市の職員か？

●ジョブガイドは国と地方の共同作業で設置しております。ハローワーク職員とハローワーク以外のサービスの問い合わせもあることから、相談コーナーという形で市の再任用の職員が一人います。例えば、保険といっても健康保険であったり、雇用保険の関係であったり、各種制度による内容の切り分けが必要となりますので、市の方でもフォローさせていただいています。求人端末が配置されていまして、ハローワーク東まで行かなくても、こちらで求人情報は確認できます。

○シルバー人材センターでは、1人の働く時間が決められているから、それ以上は働けないと聞くがどう言うことなのか。

●シルバー人材センターは、会員の方にお仕事を紹介してあげて、そのお客様から頂いた費用の何パーセントかをシルバー人材センター、それ以外をその会員さんがもらうという仕組みです。その枠組みの中で一日の制限時間が何時間かというのは調査していません。確認いたします。元来、収益を大きく上げるための組織ではなくて、基本的には高齢者の生きがいや活力、今まで蓄えてきた自分の能力等を活かして老後の生きがいを得ると言うことが主目的です。それに付随して対価として費用をいただくと言う考え方です。

○高齢者と障がい者の就業機会の拡大とあるが、障がい者の部分については障がい者就労支援センターの記載しかないが。

●保健福祉部の福祉課で当然ながら就労につきましては、フォローさせていただいています。就業についてのお問い合わせがあった場合には、商業労働課と福祉課と連携して支援に努めているという状況です。

○勤労者福祉共済会について、随分内容がそこそこ充実していると思うが。

●勤労者福祉共済会は、加入する事業者さんの会費で運営しています。市としては、事務局という立場で支援させていただいています。事業所としては15社が加入されていまして、200名弱の会員さんがいらっしゃいます。内容は色々な助成券の発行や現金の払い出し、各種ご案内通知の発送、そういった部分を市で事務局として支援しております。

○市内の事業所数からして、15社というのは少ない。会員を増やして、様々な保障の額も増やしていく事が望ましいのではないかと。

○「ひと・まち・しごと創生戦略」の中で女性の就業について、企業説明会、再就職

の支援とあるが、看護師、保育士といったような業種別の支援は考えていないのか。

●平成20年以降、緊急雇用という事で、そういった特定の業種に対して人材育成も実施していました。平成26年度をもって終了したのですが、後年次の事業につきましては、人材育成、特に接客、販売、介護職員育成もしくは医療事務従事者ということで実施していました。今回は、以前就業していたが、ブランクがある方等、再就職に対しての後押しとして1事業。北広島市に進出していただいた企業さんで人材確保、が近々の課題として声が上がっていることから、市がアシストということで合同企業説明会というのを女性向けの支援という形で2事業予定している状況です。

○高齢者就業支援はシルバー人材センター活動支援事業と言うのは…。現在、定年が60歳、定年延長というものはあるが、今後、年金の受給年齢が上がっていくと、その間、シルバー人材センターみたいに生きがいではなく、生きていくために稼がなければいけなくなる。高齢者と人手不足の地元企業を結びつけるような事業があってもいいのではないかと。高齢者の就労支援については今後の課題ということ。

○季節労働者の概要は。

●北広島市内の季節労働者数は下降しています。26年度末で599名の方が季節労働者です。北広島市で一般的に季節労働者というのはゴルフのキャディーさんであったり、建設業関係の方になります。現在は就業先が拡大して、別な業種へ行かれる方も増えて、段々減ってきています。逆にゴルフのキャディーさんや建設業関係が人材不足という声が出ていという状況です。市では、季節労働者通年雇用促進支援事業として、国と市と商工会、シルバー人材センター、労働組合系団体で構成した団体を設置しまして、通年雇用に向けた人材育成、マッチングを進めております。

4. その他（次回開催について など）

次回開催は4月18日月曜日、18時00分として決定する。

5. 閉会

（終了）20時15分

議事録署名委員